

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4370102719
法人名	医療法人社団 城山会
事業所名	城山の舎
訪問調査日	平成 19 年 8 月 28 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 3 日
評価機関名	NPOくまもと

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4370102719		
法人名	医療法人社団 城山会		
事業所名	城山の舎		
所在地	熊本市城山下代3 - 2 - 6 (電話) 096 - 329 - 2776		
評価機関名	NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3 - 19 - 201		
訪問調査日	平成19年8月28日	評価確定日	平成19年9月3日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 9 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 13 人 非常勤 6 人	常勤換算 11.7 人

## (2) 建物概要

建物構造	木 造		
	平屋 建の	1 階 ~	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無し	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1000円			

## (4) 利用者の概要( 7月19日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田内科医院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

熊本市郊外の新興住宅地でまだ田園風景も広がる地域に立地し、近くにはスーパーマーケットや病院が立ち並ぶ中にある。法人自体も医療系であり医療の協力的体制は十分に整っている。家族からは医療面からの安心感や職員への信頼感からか、入居者への希望やホームへの意見がなかなか出ないのが悩みのようでもある。運営推進会議や地域包括センターとの連携体制が整い、より地域密着度も高まってきており、自主的な取り組みも見られはじめ、地域からの信頼も更に深まることが期待できる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流において、城山地区の3つのグループホームや地域包括支援センターとの会議、運営推進会議での人材をとした交流の機会を持つことができるようになってきている。家族との情報共有についても、伝言ボードを利用し、相互に連絡漏れが無いような取り組みもなされている。身体拘束の研修も取り組み始めている。ヒヤリハットの集積事例については、今後の事故防止に役立つような検証が必要である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	入居者が更に高齢化し身体機能の低下もある中で、楽しみ事や職員のゆとりある支援を行うためには、家族やボランティアの必要性が高まってきている。特に終末期をホームで送るためには、基本方針やマニュアル等も準備が必要と思われる。職員研修と共に家族への啓発も計画的に実施されることが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	討議内容については他のホームのものを参考にしながらすすめている。地域に開かれた施設として、ホームの認知度を高めるために運営推進会議のメンバーにはホーム機能を理解してもらえるよう内容に工夫をしている。委員からも介護認定について勉強会の提案があったりしている。今後はホームの抱えている課題を共に取り組んでもらえるよう期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情箱を設けているものの、なかなか意見の吸い上げに繋がっていない。家族だけでなく、職員の中にも終末期についての不安がみられるため、指針やマニュアルを作成したりして、家族への説明も家族会等を利用して不安を取り除く努力が望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	ホーム機能を開放するためのチラシを配付したり、近所の人と挨拶を交わすなどの努力をしているが、入居者の身体的なレベルの低下により、地域行事への参加や外出の機会が少なく、職員と一部の入居者に留まっている状況である。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「思いやりとさりげない支援」をグループホームの理念とし、地域密着型サービスとしてもこれまで同様に基本姿勢は変わらない。今後も地域が一体となって支え合って生活できるよう支援に努める。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	福祉に携わる者としては理念は当たり前のことであり、職員は常に意識しながらサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の身体レベルの低下にともない、年々地域行事への参加が少なくなってきた。夏祭りやどんどや等地域や季節の行事にはできるだけ参加するようにしている。近くのスーパーや理容室などにへは、出かける毎に挨拶に心がけ交流に努めている。		ホームの入居者が地域行事に出かけていくことを遠慮しなくてはならない事情があるようです。運営推進会議や行政への提案やアドバイスを求め、解決に導くことが期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から職員に対し評価の目的や意義を説明し、ミーティングで検討し課題改善に向けた努力をしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、グループホームについて理解を広める努力をしている。防火訓練を一緒にやったり、認知症や介護についての学習会も行っている。		

グループホーム 城山の舎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故や運営推進会議の報告を通して、行政との意見交換を行なっている。		運営推進会議には包括支援センターからだけでなく、行政担当者の出席を求める事が期待されます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは毎月手紙を出したり電話や面会時に様子を報告している。預かり金に関しても、支払い面会時に金銭管理出納帳を確認しサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年毎に家族会を開催し、意見や希望を聞く場を設けている。		退所基準や看取りについては心配されている家族も多いことが窺えます。家族会でホーム側から説明する事が望まれ、それに対する意見の反映も期待されます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との関係構築に配慮し、異動は極力避けるように配慮している。離職等の場合も、早めに利用者に報告し混乱を避けるように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等にも職員は積極的に参加し、できる限り全員が研修できるようミーティングなどで伝達講習の場を設け共有につとめている。資格取得に対しても、法人全体が協力的な体制にある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	城山地区の他グループホームとのブロック会議をとおり、情報交換や勉強会を行っている。地域へ向けた啓発も協力して行う体制になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>直ぐに入居される場合が多く、十分な関係を構築した後ではないが、丁寧な説明や見学、職員からの声かけを心がけている。食事時に皆に紹介したりして配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活における家事などを入居者と共に行い、趣味や調理など得意な分野で力が発揮できる場面設定を図っている。一緒により添いながら暮らすことを目指している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言葉による表出が困難な入居者には表情や様子から、また家族からの情報によって希望や思いを精査し、サービスに活かすよう心がけている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃のミーティングでそれぞれの課題検討を行っているが、計画見直しの際には本人や家族の意見も反映できるように話し合いの場を設けている。</p>		<p>家族の意見がなかなか求めにくいようですが、ターミナルケア等の合意形成も必要なことから、少しでも家族の関わりが持てるような工夫が望まれます。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画終了前にはモニタリングも行き、的確な見直しができるような体制がある。また見直し前であっても、必要が生じた場合は随時ミーティングをおこない検討している。</p>		

グループホーム 城山の舎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の医療施設も含め連携体制が整っており、医療面では恵まれた環境にある。その他、デイサービスやショートステイなどの連携も活かされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望があれば、柔軟に対応できるように配慮している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでも既に看取りを行ってきており、看護資格のある職員ばかりでなく、職員側には心の準備はできている。家族には同意を得るための文書もあり、説明も行っている。		今後は「看取りのための基本指針」等の整備や研修も望まれます。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関しては家族にも説明している。入居者に対しては、プライバシーを損ねずさりげない対応をするよう配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとし基本的なスケジュールはあるが、あくまでその人のペースや体調に合わせた支援を心がけている。外出や買い物などの希望にも出来るだけ合わせるようにしている		

グループホーム 城山の舎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や後片付けも出来るだけ入居者と共に行い、職員も揃ってテーブルについている。献立は利用者と一緒に料理本を見ながら意見を出してもらい関心や関わりをもってもらっているようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調や希望を尊重しながら、清潔保持を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的なあらゆる場面でその人がができること得意なことを見つけ、支援するようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームのみんなで外出する機会は少なくなったが、散歩や買い物には出かけ、一人ひとりに対する支援は積極的に行っている。		外出支援では家族やボランティアの要請も考えられます。運営推進会議で検討されることが期待されます。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間や職員が1人体制の時に限り行い、鍵をかけることの弊害は十分認識している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は指導者を交えて夜間帯想定で行っている。また、運営推進会議メンバーにも参加を求め、地域との連携も図っている。		

グループホーム 城山の舎

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の一人ひとりの摂取状態を確認し、食欲の無い人にも嗜好物などで栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天井や壁面にはコルク材が使用され、消臭効果を発揮している。中庭のウッドデッキは洗濯物や布団の干し場になっており、家庭的な庭の趣である。リビングのソファの配置は入居者の状態によって位置変更をおこなうなど、快適に過ごせるよう常に配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔に整理整頓されており、入り口の暖簾等で個性が出るように支援されている。長く入居されている方の部屋では、持ち物もふえており、プライバシーも守られるようになっている。		一日の大部分をリビングで過ごされる入居者が多く、ベッド以外の居室の環境整備が思うようにすすまないようです。入居者にとって不足している(あれば助かる)と思われる品物のリストなどを家族に伝えるような努力も望まれます。



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 城山会
(ユニット名)	城山の舎 1
所在地 (県・市町村名)	熊本市城山下代3丁目2番6号
記入者名 (管理者)	後藤 直子
記入日	平成 19 年 7 月 10 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、職員全員が理念を持って支援していく為に分かりやすく、また覚えやすい理念になっている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、常にコミュニケーションを持ち、定期的に会議を行っている。	地域のイベントへの積極的な参加
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族との連絡を密にし連携を保っている。また毎週木曜日を見学日としスーパー等にチラシを貼り、呼びかけをしている。	継続。グループホームを近隣の方々にもっと知っていただく様努力していく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のスーパーと一緒に出かけたり、散歩をしたりして顔見知りになれるように挨拶を交わしたりすることが出来るように努めている。	利用者の方からは中々声掛けすることが出来ないため、職員が進んで挨拶などする様にして近隣の方々と交流を持つ。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	どんどやや夏祭りなど出来る限り地域行事に参加するようにして地元の住民と交流をもつようにしている。	○ まず地域の方々に城山の舎をもっと知って頂き、今後も出来る限り行事などに参加し交流を深める。
	事業所の力を活かした地域貢献		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々の介護等での不安や悩みに協力出来るよう、「地域のよろず相談所」としてのポスターを作成し近隣の商店などに貼って頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価においては、過大評価する事無く申告し、外部評価後指摘された点については職員間でミーティングなどを行い改善するよう努力するようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者の方の生活状況など報告し、意見を頂き改善しなくてはならない点はすぐに改善するようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携については、今後問題点などを解消するためなど、市町村の窓口に出向いて尋ねるなど積極的に連携をとっていきたい。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は学んでいる。現在当舎では活用している方は居ない。		舎内研修で職員全員が理解出来るように学ぶ機会を設けるようにする。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などに参加して学んでいる。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をゆっくり取り、重要事項や契約内容を全部読み、特に起こりうるリスクについての対処はどうして欲しいかなど希望も聞いています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置・苦情相談窓口を設けている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族など来られた時はいつもの暮らしぶりや健康状態を報告している。金銭管理は預かり金管理表をつくり御家族にサインを頂いている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時や家族会の時はお茶を出し、ゆっくりしていただき、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに心がけている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月に1回行い、みんなの意見を聞くようにしている。		出勤者だけでなく職員全員でミーティングをする様にする。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	なるべく一人対応の時間を少なくなる様に考えている。		朝食時の職員は確保できている。夕食後の一人対応を今後考えなければいけない。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が安定した生活を送るために、職員と馴染みの関係づくりが必要である。利用者とは長期的な関わりが必要だということを理解してもらい、新しい職員が入る場合は利用者の方にきちんと紹介している。		
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会、報告会などには、順番に参加し、研修報告をミーティングの時などに発表してもらっている。		
	同業者との交流を通じた向上			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や県の連絡会に毎回参加し、他のグループホームの方々の意見など聞きサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスや悩み、疲労について気を配り休憩もきちんと取るようにしている。不定期に仕事以外で職員同士で親睦会など開きざっくばらんに話せる機会をもっている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も毎日現場に来ており、個別職員の業務や悩みも把握するようにしている。また「アドバイスなど行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時にこれからの希望を本人と家族に聞き取りしている。		本人の体調等に合わせ今後の事も家族と話し合っ決めて決めている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループホーム内を見学して頂き、相談や質問には代表者が丁寧に分りやすく説明を行っている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に困って、何を必要とするのかを話し合いの中から判断して、それに沿ったサービス提供につとめている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の方にまず見学して頂いている。職員や利用者の方に慣れられる様に職員よりすすんで声掛けを行い、家族の方にも情報を頂き、安心して生活出来るように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事作りなど共にしながら、お互いに支え合える関係づくりをしている。</p>	
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の来社時には現状や思いを伝えている。</p>	
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族と一緒に外出する機会を出来るだけ多く持てるようにしている。外出が無理な方は、なるべく面会に来て頂きより良い関係築ける様に努めている。</p>	<p>行事などで外出する機会を増やして、家族の方にもどんどん参加して頂きより良い関係がもっと深まるように支援していく。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の来舎が途切れない様に、連絡などして声掛けしている。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>どうしても気が合わない利用者同士は席を遠くしたりしてトラブルを少なくしている。</p>	
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>サービス利用が終了された方にも気軽に足を運んでもらえるようにオープンにしている。</p>	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
	<p>思いや意向の把握</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望のある方には一時外出や帰宅なども行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の方より、今迄どんな生活をしてこられたか等を聞き把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人の状態をみてトイレ誘導や入浴などしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしい生活が出来るように、まず本人や家族の方の意見を聞き、職員でミーティングを行い、日頃からの本人や職員などの意見を取り入れ介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間が終了する前にミーティングを行い計画を見直している。また状態が変化した時も計画の見直しをするようにしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人に毎日介護記録を記入しそれを見ることにより職員全員が一人一人を理解できるようにしている。		その人に対してよいと思う意見を言えるような場を作り、話し合いよりよいケアにつなげたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が病院のため、本人の状況や家族の要望に応じて一時入院等の対応をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの学校や幼稚園からの催し物がある時は利用者の方がみんなが楽しめるように協力し意見を交換する機会を作っている。	運営推進会議で避難訓練を実施した。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	催し物がある時などデイサービス等に見学に行っている。	幼稚園の慰問や餅つきや太鼓などのボランティアが来たときには、参加する予定
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で地域包括支援センターの方や民生委員さん等と周辺の支援に関する情報交換や協力関係を持つことが出来ている。	
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「全て受け入れる」という事はなかなか難しいが、希望に副えるように努めている。本人の希望、家族の希望をふまえ、より良い方向へ進める様努めている。	通院希望があれば家族と連絡を取り通院。かかりつけ以外の通院は家族の協力を得ている。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症のひどい方は精神科を受診して頂き、そうでない方は定期的に主治医を受診し検査等行っている。また半年に1回長谷川式を行っている。	
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師から助言をもらったり、薬の事や症状で分からない事は教えてもらい、情報を共有している。	
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院されたときは本人支援に関する情報を医療機関に提供し、また家族の方から回復状況などの情報を聞き、様子を見て職員もお見舞いに行き現状把握に努めている。	病気の面でも個人をよく知ることが出来る様協働していく。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>年齢により体調の急変がある事を常に考え、前もって話し合いご家族の希望を聞き対処している。</p>		<p>ご家族の希望にて終末期までとのことで看取りまで行う予定。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度となった方を1番目の届きやすい居室へと変更し対応している。係りつけ医により居室にて点滴施行されている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ご家族の希望を優先し本人に対するダメージを説明し決定している。</p>		<p>利用者の毎日の生活をご家族が理解されておられない事もあり、説明に理解が得られない時もあり。ご家族に来舎の機会を多くしていくような取り組みをしていきたい</p>
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報に関しては契約の際に利用者及びご家族に文書で説明した上で同意書にサインと捺印を頂いている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>各利用者に合わせた声掛けを行い、話せない方の場合は表情や行動で気持ちを読み取る様にしている。買い物と一緒に出掛けた時は好きな物を自分で選んでもらえる様に声掛けしている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時声掛けするが、ゆっくり寝ていたいと希望されている時は本人のペースにまかせている。各利用者のその時の気分や気持ちを尊重する様にしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容室へは御家族に依頼し、ご家族に同行して頂き利用されている。		ご家族と外出が出来ない方は訪問理容を利用したいと思っている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める際利用者の希望を取り入れたり、野菜の皮むき等利用者に手伝って頂いている。片付けも出来る範囲で茶碗洗いや茶碗拭きをお手伝いして頂いている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み込みの状態に合わせてとろみを付けたり、牛乳が嫌いな方には代替品を出したりと状況に応じて対応している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	声掛け、誘導を行い、個人に合わせた支援を行っている。尿量に応じて尿取りパッドを使い分けたり個人にあったものを用いている。		排泄表などを利用して、なるべくトイレで排泄出来るよう更にこまめな声掛け誘導を行う。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな曜日は決めているが強制はせず、本人の意思や体調など尊重している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室温や灯り等を本人の希望に調節し、スムーズに眠りに入れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きな演歌のビデオを流したり、買い物に同行したりと、本人の希望に副って行っている。また気晴らしにドライブ、外出なども行っている。		
	お金の所持や使うことの支援			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レベルが低下しており金銭管理が難しい方も居られるが、買い物の際財布を渡し、自分で支払いをして頂くなど、出来ることはして頂くようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、その都度対応している。		天気のいい日は散歩に出掛けるようにしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望に合わせて職員にて対応出来ない場合は御家族に協力を仰ぎ外出出来るようにしている。		季節の花、桜、しょうぶ、コスモスなど名所に出掛けている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話など利用出来るようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間などの制約も無く、いつでも訪問して頂けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のミーティングを行い、職員一人一人が共有し、理解出来るようにしている。1対9人の場合不穏な行動が見られる場合のみ施錠することもある。		不穏がみられ、帰宅願望により徘徊が予測される時は御家族に連絡し、都合がよいときは御家族が同行されている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵を掛ける事は無く、自由に出入り出来る状態になっている。		
	利用者の安全確認			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮出来ている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態、レベルに応じて危険を防ぐように注意している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修や避難訓練など定期的に行い、事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時は母体である病院のドクターに報告。往診を依頼し指示を受けている。また夜間急変時にはマニュアルを作成している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て避難訓練や防火訓練など行っている。消火器の使い方など実際に使用して訓練している。		利用者の方も高齢化が進み、訓練に参加するのが難しいが、全員で訓練出来るようにしたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日々変化していく状態を家族に伝え、その人にあった生活を送ってもらえる様家族と共に考え補助具の購入などしている。		利用者の願い、家族の願い、こちらの思いを話し合い、同じ方向性で一緒に進んでいける様取り組んでいる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化を感じた際は、バイタルチェックを行い様子観察を行う。状態によってはドクターに連絡し、指示を仰ぐ。		
	服薬支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		看護師によるバイタルチェックを行っている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		便秘予防の為に茶時に牛乳を出したり、食物繊維の多い食べ物を提供する様にしている。状況に応じて、トイレ誘導時腹部マッサージ等も行っている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている		自分で歯磨きなど出来ない方は職員が介助し、その他の方にも食後歯磨きをして頂くよう声掛けしている。口腔ケア用のスポンジも使用している。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		食事を食べようとされない時は、栄養剤で対応する。水分は食後と食間に各100～120ccのお茶と服薬に水を100ccで飲んでもらっている。どうしても飲もうとされない方には、お茶ゼリーを作りそれを食べてもらっている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)		インフルエンザは係りつけ医により、予防接種を早目に受けている。感染した方は居室内にて過ごしてもらい他に感染しないように努力している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		食事は毎日その都度調理している。食後片付け終了後は毎回まな板・布巾は漂白し消毒している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		玄関にプランターを置き、花を植えている。
	居心地のよい共用空間づくり		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中帰室されることなく、リビングのソファで過ごされている事が多い。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファも自分の好きな位置が定位置となっている。一人一人の居室があり、プライバシーの保護は出来ている。時々話が合う人の居室で会話されている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	手持ちの家具などを持ち込んだり、写真を飾ったりなどして、落ち着いて過ごせる居室造りをしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後は必ず窓を全開にして空気の入替えを行い、その後も状況に応じて換気等を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行できる方は転倒防止の為手すりを使い、車椅子の方は自走できるように通路等広くとってある。		ベッドより起き上がりが出来るように手すりを付けた。ベッドも介護用リクライニングが出来る物へと変更している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ誘導はその人に合わせて行っている。トイレ・居室にネームプレートを掛けている。		トイレ誘導により、日中は紙パンツにせず、布パンツにて失禁が少なくなるように努力している。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭がすのこと芝生となっていて、プランターがあり、テーブルと椅子が設置してある。		天気のいい日には外でお茶を飲んだりしている。高校生の太鼓の演奏があった。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

母体が診療所で近くにあるので、病気の時など対応がすばやく出来る。



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 城山会
(ユニット名)	城山の舎
所在地 (県・市町村名)	熊本市城山下代3丁目2番6号
記入者名 (管理者)	橋本りつ子
記入日	平成 19年 7月 2日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	思いやりとさりげない支援で覚えやすく人間の基本である。地域密着型になってもこの理念を基に地域に知っていただきその人の暮らしをみんなで支えていく。人が人を思いやる思いこの思いを元につくりあげている。		利用者、職員など人が代われればこれでいいのかこれだけでいいのかと問う。日々の暮らしの中から少しずつ変化していくなかでさらにいい理念を考えていく方向へと取り込んでいこうと思う
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	人間として福祉の関係者として当たり前のことある。共有し取り組んでいる		申し送りの場で理念を言い合い理念の共有を保ちケアの統一を図る
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会のときや、運営推進会議時に説明をおこなった。各事業所ごとに理念を書いたものをみんなが見える場所に掲げている		入所時、契約書を交わすときに理念を掲げた理由や思い等を伝えていきたい。見学にこられた方たちにも伝えたいと思う
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎週木曜日に見学会を行いご案内発信をしている。また近隣は、病院が多数人の利用者が通っているためなじみの関係ができています。散歩途中での挨拶は欠かせない。		新聞や、回覧板などを作りG・Hをもっと知っていただけるよう取り込んでいきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加していたが(どんどや、夏祭り)レベルの変化で参加者が減ってきた。スーパーや、理容室などは利用している		利用者に合わせたケアを思い無理強いしない

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	H・18・11・25に西4地域包括支援センターの主催で地域の方にグループホームの認知症の講演会や紹介の場を設けていただいた(城山地区のG・H合同)		今年も同じく合同で地域の方を招き何らかの支援をしていく予定である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意識をスタッフにわかりやすく伝え、毎年評価を活かして具体的な改善をおこなうことに力をいれている。できることは、すぐに改善している。		今年から改善した会議のときに伝えていく。外部評価の重要性がよりよく伝わるようにしたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あまり意見はでていないが、取り組み状況についての開示の場がある。情報交換し、地域リーダーの声を直に聞けるのが安心である。		評価を開示するばかりでなく運営推進会議で評価を話し意見を聞きこれからのケアに努めていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所での事故や、会議の報告など伝えるべきところはきちんとしている。防火訓練のときは、消防署にお世話になっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は勉強会や研修で学んでいる。今のところ活用する利用者がいない。必要な人がいるようになればそれらを活用できるよう支援する。		機会があるごとに研修や勉強会に出てもらうまた舎内での勉強会を開く
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでよくどこまでが虐待かなどよく話し合いの場にておりスタッフ同士では各々理解している。点滴など医療行為のときは終わるまで手を握り安全を第一に考えている		事業所で虐待行為についての勉強会をふやす

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	時間を十分設け説明を管理者がしている。納得されるまで説明し自宅に帰りゆっくり読まれるよう説明している。		もっとゆとりをもち1度でなく契約する前にも説明していきたいと思う。地域密着型サービスについても説明をおこないたい
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意思表示できる利用者には、傾聴につとめ、表現できない利用者煮は、嫌がること好むこと言動から本人の意見意向を探る努力をしている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	月に1回家族に手紙または、救急の場合は、電話で個々に合わせた報告をしている。月に1回支払い時面会時に金銭管理出納伝票の確認サインをいただいている。		小さなことでも家族に連絡を入れる。いつでも家族が、利用者の状態がわかるように勤める。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会を設け家族同士の集まりの場をもうけ意見が出せる仕組みを作っている。また苦情窓口や、苦情箱を設置している。家族会のときも意見を書くスペースを入れている。		家族に外部評価と別にアンケートをとってみる。 ×などで
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	意見を出せる場を設け意欲向上質の確保に努めている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者の状態に合わせたローテーションを組んでいる。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	移動等がある場合は、早めに入居者へ報告し理解していただいている。紹介するとともに歓迎会も行い関係作りに勤めている。		移動があった場合は、家族会に報告をしていたがもっと早く報告をし信頼関係を築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には職員全員が参加できるように順番で参加している。研修の内容は、みんなが閲覧できるようにしている。月に2回定例会議もありそこで研修の発表もしている		会議の内容は、すぐに見られるようレポートをだし見やすいようデスクにおいている。申し送りのノートと一緒に置いている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	城山地区の3G・H合同でブロック会議や運営推進会議開いて勉強会や情報開示を行い質の向上に努めている。		他のG・H等の見学会をおこないたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	気分転換を図るため休憩室を設けている。又午前午後10までのティタイムを設けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員全員に研修を自由に受けられるよう配慮している。仕事の場合は、有給休暇を利用してもらっている。個々の実績がよく努力している人には、次の責任者として働いてもらっている。		もう少し個人個人に向き合ってきていることは褒めていくよう言葉賭けを多くしたい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	利用する前に1度来ていただき見学をしてもらっている。そこでゆっくり話を聞き信頼関係づくりし色々相談を聴くよう努力をしている。		もう少し時間をかけ信頼関係をつくりたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所申請時困っていることや、不安なことを書いていただいている。それを聞きながら話し合の聞く機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が必要とする支援には、すぐ答えられるよう努力している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐ入居の場合が多く、その場合でも家族等の協力を得て、徐々に慣れ安心してもらえるようにしている。最初の食事の時に紹介をし、入所の前に部屋を案内し説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者という意識を捨てお互い協力して1日楽しく生活できるよう努めている。		個々の力を発揮する場面を作っている。(調理、洗濯干し、生け花など)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族来舎時には、入居者の様子を伝え情報共有に努めている。		家族の協力の下買い物は家族に任せている。以前に比べ面会が増えているコミュニケーションを図る回数が増えている
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お正月やお盆には外出、外泊を勧めている。誕生会に来ていただきみんなで祝う機会を勧めている。		年賀状を自分で書いてもらい郵送している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1人の外出が困難な方ばかりなのでこちらからの出向くという事はなくなったが訪問は時々ある。		利用者の希望で遠出の外出の場合は家族の協力を得実施したい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	情報を連携し、すべての職員が共有できるようにし日々、時々変化することもあるため注意深く見守り職員が調整役となり支援している。		どんなに小さな出来事ももらさず申し送り事項に書く

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特老へ入所された方や、入院された方の面会など行い家族からの相談等にも協力している。		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情から本人の思い、希望を確認し困難な場合は家族協力にて情報を得て本人にとって最良なことを検討している		ゆっくりとした時間をもうけ1対1にて自分の思いを傾聴していきたい(定期的)
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語り、家族よりの情報、知人よりの情報によりこれまでの暮らしの把握に努めている。		利用者に関係する情報を入所するときに家族から聞くよう時間を設ける。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できる力、わかる力を日常生活を共に生活する中で発見し本人の状況を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いを大事にし、職員全員で介護計画を本人・家族と話し合い作成している。		本人の思いを1番にして家族同席にて話し合いをしたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員全員が本人の情報を確認し計画の遂行状況効果など評価し、見直しを計画の期間前でも検討している。		毎日会議する時間を設け情報を共有し見直し必要であれば全員会議にて話し合い見直し計画をたてる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日会議記録をし、すべての職員が身体的状況、1日の様子、言葉等の情報を共有し、介護計画に活かしている。		毎日会議する時間を設け情報を共有し見直し必要であれば全員会議にて話し合い見直し計画をたてる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらへの生活の継続重度化した場合や、終末期の対応など多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	個人ボランティア協力にて家事援助、外出支援をしている。高校ボランティアによる太鼓演奏や幼稚園の訪問による演奏、合唱など。防火訓練の消防署協力		本人の意向に備えるように人員配置を考え対応する。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在利用している人がいないが、必要な場合は、家族や運営者と話し合い支援していきたい。		どのようなサービスがあるか調べ活用できれば協力したい
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し関係強化され2ヶ月に1回地区3箇所のG・H管理者、職員による会議をし周辺情報や支援に関する情報交換協力関係を築いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診、通院は、希望に応じ対応し家族同行受診が不可能なときは職員が代行支援している。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症が悪化した場合は専門の精神科を受診している。内服の相談や指導を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置し常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援をおこなえるようにしている。看護職員不在時は、母体の医療機関の看護師と連携を保ちよりよい支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時本人の情報を医療機関に求め支援体制を作り看護職員が面会に行き家族と情報交換をし話し合い、事業所内での対応可能な段階で速やかな退院支援をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末に対する対応方針を定め家族を交えて話し合いをおこなっている。同意書を作成し対応しケアについて説明をしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。母体が、医療機関であるため変化した場合は連携を図りながら対応している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住む場合は、利用者の状況に合った場所を探し最大の支援をしたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>目立たず、さりげない言葉掛けや対処に配慮している。年齢が増すごとに身体機能も低下しているが、入浴時は必ずスタッフがつき配慮している。</p>	<p>レベルが進み難聴者もふえて以前より大声での対応が増えてきたように思う。さりげない態度で支得るよう心がけたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人ひとりにあわせ個別に対応している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れはあるが利用者の希望は聞かれぬ。利用者の体調に配慮しながら支援している。外出の希望や買い物などの希望はできるだけ聞いている。</p>	<p>歩行や車椅子での移動が可能な方たちは舎内での動きは自由にされマイペースで1日をすごしている</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>朝の着替え、入浴後の着替えは欠かさずおこなっている。化粧やアクセサリーをされている方もいる。美容室も希望の店を利用している方もいる。自己決定できない方は出張カットをお願いしている</p>	<p>職員も身だしなみやおしゃれに気を配りたい</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューの希望を取り入れている。材料きり、味付け盛り付け、かたづけ等も利用者とともに、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりをしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>以前自宅で夕食時にお酒をのんでいたそうだが入所機会にやめられたその後1度も言われない。</p>	<p>お酒が好きな方には、誕生日や正月、盆など検討してみる。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を把握しトイレ誘導をおこなっている。日中、夜間と尿取りを使い分け個人にあったものを使用している。排便チェック表を使用し時間を見計らってトイレで排泄できるよう支援している。果物、ヨーグルト、内服等を使い分けている。		一人ひとりのパターンが把握しているためうまく排泄しているが時には空振りもある。気持ちよいトイレでの排泄を目指している
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は入浴させ清潔の保持につとめているが、汚染の場合や体調不良の場合はその人に合わせておこなっている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の覚醒を促し、生活リズムを整える要努めている。一人ひとりの体調に応じ昼ねを勧めている。眠剤使用の方は、確実に投与している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物干し、たたみ、調理、配膳、食後のかたづけ、生花など得意なこと、できることの支援をしている。		何もできない方にも何かを探し小さなことでも笑顔が見られる様な気晴らしをさせたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は、買い物や美容院利用時に財布より支払いをしてもらっている。レベルの低い方は、職員の支援が必要である。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりにあわせたその日の希望までとはいかないが、散歩や、買い物にはでかけている。遠出などには、家族の協力を得る。		レベルが下がり、支援が多くスタッフの力量も限られてきたように思える。ボランティアでの散歩や会話がありありがたいと思う。 現在い1名のボランティアのかたがいる。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族とコンタクトを取りながら体調に合わせて外出の機会を作っている。		みんな一緒にの外出むずかしいので1対1や2対2での外出をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1部で手紙のやり取りをしている。・視力低下、難聴で送ってきた手紙やはがきの聞かせる支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来舎時は、接待に気をつけ気軽に話し合いができる雰囲気づくりをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業者では、絶対拘束しないと決めている。安全のための2点ベット柵や玄関の鍵はしている。あくまでも安全のために寝たっきりの方はいないので休むときだけおこなっている。		玄関の鍵をやめよう。 時間を決め現在実行している 9:00から16:00
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間および職員が1人のときは、玄関のかぎをかけている。それ以外の時間帯は開放している。居室の鍵はしていない。事故防止のため家族に了解をえている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時間訪室に努め常に一人ひとりを見守っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その人の状態、動線に合わせて部品の保管管理をしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	以前より、ひやりはっと記録をしている。防火訓練をしている。緊急の連絡網を作成している。意識を持ち一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		ひやりはっと記録にもっと取り組んで意識啓発をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会をおこなっているが、そのときできるか不安がある。看護師が数人いるので強みはあるがいないときの不安がある特に夜間。連絡網を作成している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間帯を想定しての防火訓練や消火器の使い方などは、指導者を交えておこなっている。防火訓練は、年2回はおこなっている		2年以内に防火設備を備える
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	毎日気づきについてスタッフが意見を言える場所があるその間で入居者のリスクについても話しをしている。家族への連絡は、こまめにしている。		家族への連絡が確実におこなえたか各自の連絡ノートを作成し確認し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	母体が、病院のため早期に発見し速やかに対応している。申し送りを徹底している。		利用者の体調がゆっくり変化していく場合はなかなか気づきが遅くなるので少しの変化でも逃さないような気づきの力を身につけるよう日ごろから心がけるようにしている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りにカードックスを利用しているが、そこに内服の使用方法などの説明書があるため各自理解している。また臨時薬等は、申し送りで周知している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因は、よく理解している。そのための予防や工夫はよくやっている。朝、1番で牛乳を飲んだり、水分補給に努めたり、野菜や、果物を取ったり、腹部マッサージをしたりしているそれでもうまくいかないときは、内服を医師にお願いしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各自に合わせ支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時摂取状態の確認をしている。その人にあわせた食器を考え支援している。食欲がない場合は、嗜好物を聞きながら作っているまた、家族の協力を得持ってきてもらい量やバランスを考えている。それでも摂取できないときは、点滴をお願いし、水分補給をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルどおりにおこなう。また予防接種は、利用者全員おこなう。手洗い、うがいの励行もおこなっている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、毎日市場より配達してもらい、いつ配達され、いつ使用するのかを台所に表示している。食器もハイター消毒を夕食後おこなっている。夏場は、なるべく生ものはさけ野菜も温野菜にしている。		消毒の徹底と市場よりの新鮮な食材配達を多くしている。賞味期限の確認は必ずやっている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、ドアがガラスでできており中が見えるような開放的空間にしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーには、季節感を感じる飾り付けをしている。またみんなで過ごせるようにテレビやビデオやソファを配置している。フロアーから中庭が見えいるんな季節の花が見えゆとりある空間となっている。キッチンもフロアーと一緒に食事の時間や料理のにおいなどがわかりやすい場となっている。		季節を表す飾りや、写真などをおき穏やかな空間を出せる工夫をしている。各自の動きに合わせてソファや椅子をかえ居心地のよい空間づくりをしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の設備が四角いため一人になる場所がなかなかないが、それなりにソファの位置を変え気のあった同士で過ごせるように工夫している。		リビングの椅子の配置やソファの配置を話し合う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持ってこられた物や、利用者の好みのものを飾っている。長く利用している方はそれなりに落ち着いた居心地のよい場所となっている。		期間が短い利用者に好みの飾りを置く工夫をし寂しくないように配慮をする。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	体温調節ができない方が多いため、冷暖房の調節は欠かせない。空気の入替えも欠かさずおこなっている。居室においては、原因を探り掃除をこまめにする。服などもこまめに洗うまた柔軟剤などで香りよい生活をしていただいている。		衣類をこまめに替えたり入浴の回数を多くしたりし清潔を保つよう努力する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や、リビング全部に手すりを取り付け安全に徹する。トイレも車椅子が入るような広い空間にしている。椅子も横に倒れないような椅子を用意して居室での椅子も家族と話し合い良い椅子を用意してもらっている。		利用者の動きや高さが変わってきたため手すりの配置を考えている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱が起きないよう環境整備は怠らないようにしているまた壊れたものや汚れたものは速やかに補修をしている。又その利用者の状況に合わせて皆で話し合いをしている。		近頃お盆の絵柄をみて食べ物だと思ひ箸で突く人もでてきた絵柄がついた食器等も考え検討中だ。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にベンチを置き花を眺められるよう楽しみながら活動できるスペース確保している。季節のいい日はお茶を飲んだり、おやつを食べたりと活動できるように活かしている。		もっとベンチを置き空間づくりをする。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)